切磋琢磨

令和６年４月実施　全国学力学習状況調査の結果考察（日吉中学校）

４月 18 日に 3 年生で実施しました全国学力学習状況調査の結果をもとに分析、考察いたしましたので、お知らせいたします。今回の調査は、国語、数学テストとオンラインによる生徒質問調査が行われました。

【調査目的】

◆義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◆学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◆そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査結果について】※全国平均との比較において顕著だった問題・質問及びその結果を踏まえた指導の改善策

《国　語》

◇正答率が高かった問題

・短歌の表現の技法の説明で適切なものを選択する。

◆正答率が低かった問題

・話し合いの話題や発言を踏まえて自分の考えを書く。

・本文を理解するために着目する内容を決め要約する。

・表現を工夫して物語の最後の場面を書き表現の効果を説明する。

・短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並び替える。

◇日吉中　国語の強みとその要因

・「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「思考力、判断力、表現力」の「話すこと・聞くこと」の数値が、他の項目と比べると高い。

《要因》

・基礎・基本をくり返し学習することによって、その定着がみられる。

・短い文章を読み、内容を理解することは慣れている。

◆日吉中　国語の弱みとその要因

・「思考力、判断力、表現力」の「書くこと」、「読むこと」の数値が、他の項目と比べると低い。

・記述式で解答する問いの無解答率が高い。

《要因》

・長い文章を読むこと自体に抵抗感がある。

・自分の考えを形成し、表現する学習経験が少ない。

【考察】

・記述の無解答率が高いのは、「書くこと」に課題があるとともに、「読むこと」にも課題がある。

・授業では、課題や指示を噛み砕くと取り組める生徒が多く、まわりの友達に聞く姿もよく見られる。

・一人でじっくり考えたり、長い文章や、改まった文章を読解したりすることが苦手である。

・選択式や短答式の無解答率も後半になるにつれて上がっていくため、50 分という時間粘り強く向き合う集中力がまだ身についていない。

【今後の課題と力点】

・話し合いの目的や話題を意識し、話合いがどのような段階にあるのかを捉えながら話したり聞いたりできるよう指導する。

・要約する目的や必要に応じて、内容や分量、方法が異なることを理解し、適切に要約できるよう指導する

・自分が伝えたいことを明確にし、効果を考えながら工夫して記述したり、伝えたいことが読み手に伝わっているか確かめて推敲したりすることができるように指導する。

《数　学》

◇正答率が高かった問題

・正しい回転移動を選択する問題。

◆正答率が低かった問題

・等式 $6x+2y=1$ を y について解く。

・実験した結果を基に、最頻値を求める。

・データの分布から四分位範囲について読み取る。

・グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができる。

◇日吉中　数学の強みとその要因

・「関数」の領域の「知識・技能」の観点に関わる問題の正答率が、他の問題と比べると高い傾向にある。

《要因》

・グラフの傾きや切片について、きちんと理解ができている。そのため、複数のグラフを比べて違いを解釈することができる。

◆日吉中　数学の弱みとその要因

・数の性質を文字を使った式で説明したり、図形の問題を筋道を立てて証明したりする力が弱い。

《要因》

・ある命題が正しいことを筋道を立てて論理的に導いていくことや、長い文章を書くことが苦手である。

【考察】

・関数の領域の正答率が高い傾向にあった。

・図形やグラフを読み取ることはできるが、問題の意味を理解できず答えがわからない場合がある。

・選択式、短答式の正答率に比べると、記述式の正答率がかなり低い。

・記述式の問題の無解答率が高い（特に図形の証明）。

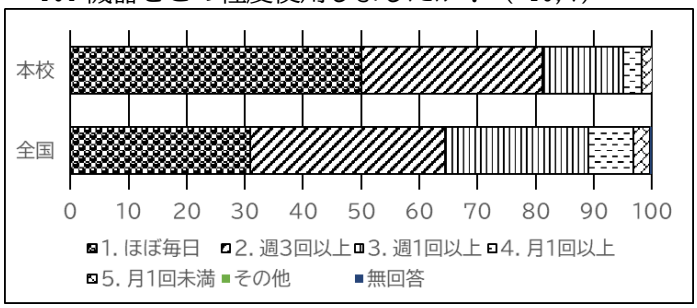
【今後の課題と力点】

・なぜそうなるのかを筋道立てて説明する力を身につけさせる。口で説明できれば、それを文章で表現する練習をしていく必要がある。自分の考えを表現させるために、積極的に書かせる練習をし続け、記述問題が無解答にならないようにしていきたい。

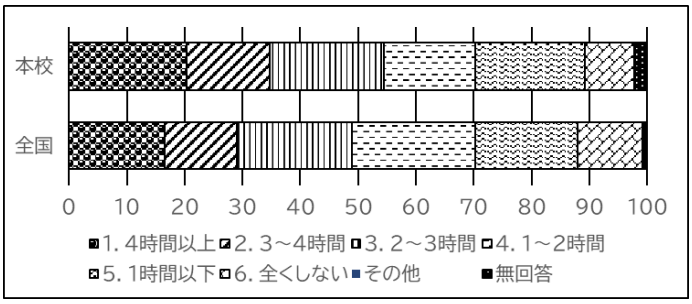
《生徒質問調査》

◆回答１または２が顕著に全国割合を上回った質問
（数字は回答１，２の合計の全国平均との差）

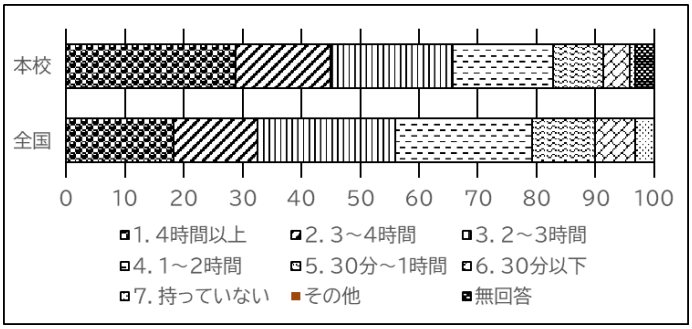
○1，2年の時に受けた授業でPC、タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか？（+16,7）



●普段（平日）、１日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか（+5.7）

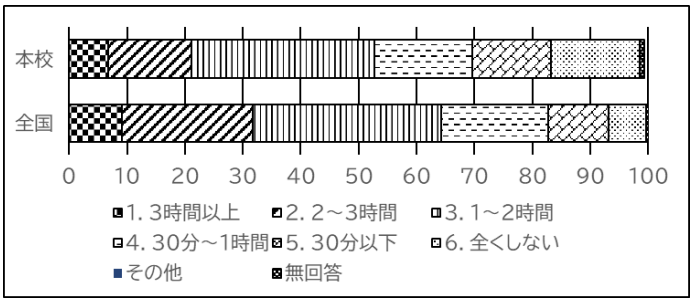


●普段（平日）、１日当たりどれくらいの時間、スマホ等でSNSや動画視聴をしますか（+12.5）



◆回答１または２が顕著に全国割合を下回った質問
（数字は回答１，２の合計の全国平均との差）

●学校の授業時間以外に、普段（平日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか？



◇日吉中　強みとその要因

・直面した課題の解決に向けてICT機器等を活用し、仲間に相談するなどして得た情報を活かして自ら取り組み、判断し、行動できるような自己解決力が身につき始めている。

・他の質問で全国平均を上回った項目に「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれぐらいありますか」があり、生活面で充実している姿が見られる。

《要因》

・授業でのICT機器の活用時間が充実しており、情報収集や課題解決に役立てる方法を習得できた。また、学活、総合学習、道徳教育を通して身につけた「人を助ける」など自己肯定感の上昇も「話し合う」「意見を活かす」要因の一つと考える。

◆日吉中　弱みとその要因

・携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをする時間やテレビゲームをする時間が全国平均よりも長い。

・授業以外での学習時間が全国割合を大きく下回っており、学習に対する関心が低い。

《要因》

・携帯電話やスマートフォン、テレビゲームの長時間使用が家庭学習の時間を減らすことにつながっている。また学習したことは、「普段の生活の中に役立てることができる」、「活用できるのではないか？」という考えにつながらず、家庭学習の習慣が十分身についていない。

【考察】

多種多様な環境の中で、子どもたちは自己肯定感を何とか保ちながら学校生活を頑張っていることがわかる。学活や総合学習を通して課題解決に向けての情報収集や意見のまとめ方を学び、それらを日頃の生活の中での課題と直面した際に活かしている。スマホなどのSNS、動画視聴の時間が全国割合を上回っているのは、単に時間つぶし、遊びのためだけではなく子どもたちの人間関係構築のためのツールとして使用している側面もあり、SNSを介したトラブルにも注意が必要である。

【今後の課題と力点】

「将来の夢や目標」と関連し、スマートフォン、テレビゲームとの向き合い方を再度確認するとともに、学習したことは「普段の生活 の中に役立てることができる」ことを浸透させ、保護者とともに家庭学習の大切さを理解させ学習習慣を身に付けさせていく。